

教会 ニュース

隠れた事を見ておられる父

主任司祭 遠山満

幼い子供たちが、「ねえ、パパ（あるいはママ）、見て見て、これができるようになったよ」と言いながら、自分ができるようになった何らかの業を、親に披露するのは、とても可愛らしいものです。周囲も見ていて、思わず「上手ね」と拍手したくなります。

このような事は、幼い頃だから可愛いし、赦されるのだと思います。大人になって、このような傾向が続けばどのようなになるのでしょうか。一廉の大人が、懸命に他人の評価を求めるようになれば、どのようなになるのでしょうか。その人は、自分の名誉に気を配り、良い人を装うようになる事でしょう。評価に関して他者と競争するようになり、他者を蹴落とそうとしたりします。失敗すると、それを隠そうとします。自分の評価が地に落ちると、人生が終わったかのように思ったりするのではないのでしょうか。そのような人は、他者の評価が自分の行動原理になっています。

さて、今月から私達は四旬節に入りました。四旬節の始まりである灰の水曜日には、毎年同じ福音箇所が読まれます。その中でイエス様は、施し、祈り、断食をするにあたって、人目につかないようにしなさいと繰り返し仰っています。何故なら、人に気づかれた場合、その人は、その時点で報いを受けてしまい、天の父の元での報いを受けることができなくなるからです。隠れた所におられる父なる神に見て頂くために、全ての事を行いなさいと仰います。荒れ野でイエス様はサタンから同じような誘惑を受けられました。サタンは、高い所から飛び降りて、人々をあっと言わせるようなことをイエス様にさせようと思いました。飛び降りても、天使達があなたを支えるからと唆します。しかし、イエス様は、人々をあっと言わせて人の注目を集める為に、この世に来られたのではありません。むしろ、そのような虚栄心、名誉欲に縛られている私達を解放するために、この世に来て下さったのです。

私達は、もともと弱きものです。ですから、自分の名誉が失墜するような出来事があったとしても、必要以上に嘆かないようにしましょう。むしろ、それを通して、神様の栄光が現れますようにと祈りましょう。

拡大信者会議事録

3月2日(日)

アヴェマリアの祈り

1. 4月6日(日)の信者総会に向けて

25年度の1年間の行事のDVDを流す予定

内容

- ・活動報告
- ・会計報告(決算、予算)
- ・26年度の目標(テーマ)を決める
教区の目標に合わせて決める
- ・例年通りの行事でよいか?
「黙想会を入れて欲しい。」黙想の家の聖堂は寒いので時期を考える。
- ・役員紹介(前年度の役員が本年度も継続してもらうことを願う)
役員の決め方 よい方法がないか?
班ごと選出する、班の結束を固めるため以前のように班で集まってホームミサをするのがいいのでは? 班編成が変わるかもしれない。皆で考えましょう。
- ・その他
信徒協、婦人会の活動報告
教会の既存のグループの活動紹介



2. 今後の予定

3月5日灰の水曜日

4月6日信者総会

4月13日枝の主日 黙想会 指導 ご受難会 中村神父様

4月19日復活徹夜祭

4月20日復活の主日

4月27日初聖体

5月11日バザー

バザーの話し合い

** 祈りましょう **

東日本大震災が発生して三年になります。被災地に暮らす方々の心に希望が輝くことを願いながら、日本の司教団は下記の祈りを採択し、全国のカトリック信徒が共に祈るよう呼びかけています。わたしたちも被災者の方々のために祈りながら、実りある四旬節の旅路を歩んでいきましょう。

東日本大震災被災者のための祈りⅡ

父である神よ、

すべての人に限りないいつくしみを注いでくださるあなたに、
希望と信頼をこめて祈ります。

東日本大震災によって今もなお苦しい生活を送り、
原発事故によって不安な日々を過ごす人々の心を照らし、
希望を失うことがないように支えてください。

また、亡くなられた人々には、永遠の安らぎをお与えください。

すべての人の苦しみを担われたキリストがいつもともにいてくださることを、
わたしたちがあかしてできますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

(2014年2月18日 日本カトリック司教協議会認可)



日曜学校2014年4月予定表



	4月6日	4月13日	4月20日	4月27日
1年生	春休み	始業式	新しい おともだち	子どもミサ
2年生	春休み	始業式	初聖体準備	子どもミサ (初聖体式)
3・4年生	春休み	始業式	ご復活	子どもミサ
5・6年生	春休み	始業式	ご復活	子どもミサ

※4/26(土)2年生初ゆるしの秘跡

編集後記



先月中旬、関東地方は記録的な大雪に見舞われた。

ちょうど息子の大学受験で上京していた私は、帰りの最終便が飛ばず羽田空港で「帰宅難民」となった。空港ロビーは同じような人々であふれ、大変な思いをしたのだが、同時に忘れられない貴重な体験となった。

私と同様眠れずにいる隣席の男性は、私が受験で来ていると話したら「いいことあるよ」と励ましてくれ、自分の息子たちの受験の頃の話を持ちかそうにしてくれた。また予約便変更のために並ぶ長蛇の列では、前後のサラリーマンの方々とその日の苦労話。その方たちは何と飛行機の機内で5時間待ち結局降ろされたのだという。はたまた女子トイレで携帯の充電をしながら、同じコンセントを使っていたギャル(!)と話したり。老若男女こうなると「同志」である。配られた毛布やパンや飲み物が、どれほど嬉しかったことか。震災被災者の方々もこうだっただろうか。本当にほんの少しだけだがその気持ちがわかるような気がした。

結局翌日も午前中はすべて欠航、私はあらかじめ新幹線に切り替えた。10分程の遅れで、雪景色の中を颯爽と堂々と走っていくのぞみ号は日本の宝だな、などと思いながらいつの間にか私も眠りにおちていた。

この春大学生となる三男とは、思いがけず長い時間を二人で過ごした。淡々と置かれた状況を受け入れやり過ごしていく彼を横目で見ながら、もう大丈夫、安心して送り出して良いのだな、と思った。その成長を神様に感謝しつつ、4月から上京する彼を笑顔で見送りたいと思う。(S・A)